

練馬区内で緑の増進に関する取り組みを積極的に行っている 2 地区を対象として、緑の現状と住民意識に関する調査を実施しました。現地調査は 2020 年 8 月～9 月に実施し、街路から見た緑量（緑視率）と緑の種類を把握しました。

■ 武蔵関地区

① 緑視率が最も高い地点

緑視率：54.3%



② 緑視率が最も高い通り

平均緑視率：36.9%



③ 緑視率が最も低い地点

緑視率：6.3%



④ 緑視率が最も低い通り

平均緑視率：14.6%



※緑視率

人間の視野に占める緑の割合。国土交通省は「緑視率が25%以上だと、緑が多いと感じる傾向がある」としている。近年は環境指標として緑視率を取り入れる自治体が増えている。

■ 城南住宅地区

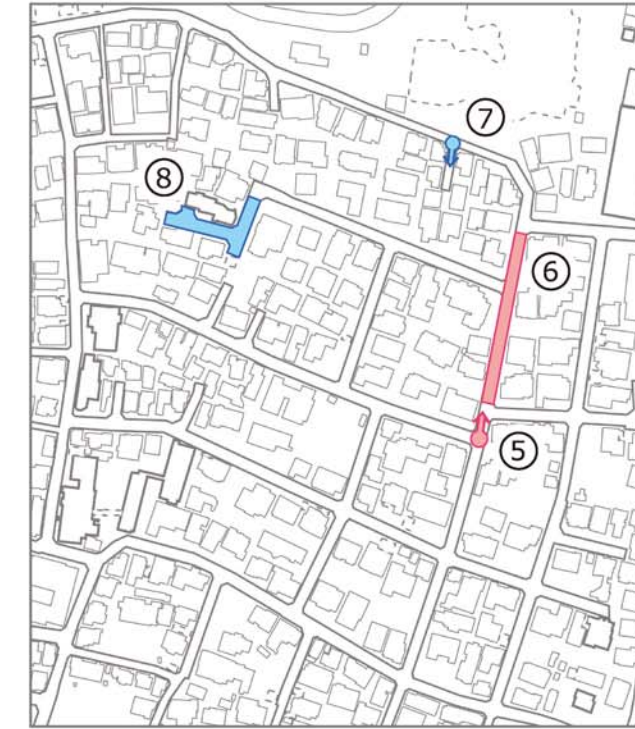
⑤ 緑視率が最も高い地点

緑視率：59.7%



⑥ 緑視率が最も高い通り

平均緑視率：48.4%



⑦ 緑視率が最も低い地点

緑視率：6.3%

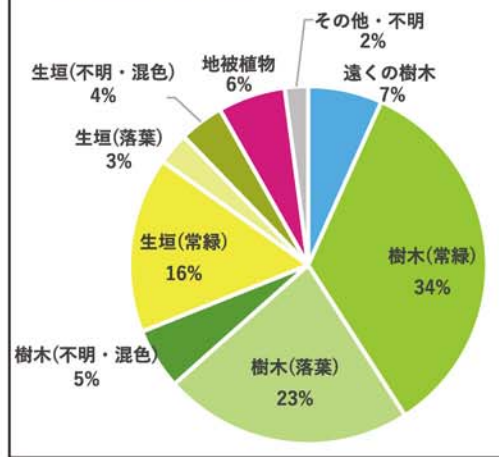


⑧ 緑視率が最も低い通り

平均緑視率：14.7%



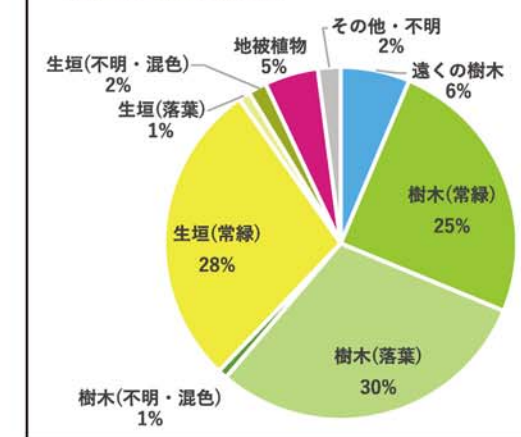
緑の構成比



【調査結果】

- 平均緑視率：29.8%
→区発表の住宅地平均緑視率（22.7%）を上回る。
 - 「樹木」の多い箇所と少ない箇所の差が大きい。
 - 武蔵関公園の緑により、緑視率が高い。
 - 「樹木（常緑）」の割合が高い。
- ※武蔵関公園沿いのカシヤシイが影響している。

緑の構成比



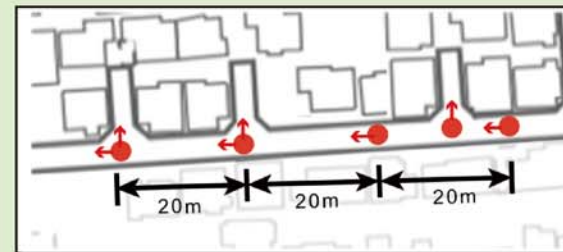
【調査結果】

- 平均緑視率：33.2%
→区発表の住宅地平均緑視率（22.7%）を上回る。
 - 「生垣（常緑）」の割合が高い
→「通りに生垣を設置する」取り決めが結果として出た。
 - 「樹木（落葉）」の割合が高い。
- ※まちの象徴であるサクラ並木の通りが影響している。

■ 調査方法

① 写真撮影

- 設定：高さ 150 cm、焦点距離 50 mm、約 20m 間隔
- カメラを水平方向に向け、約 20m 間隔で道に沿って撮影。
行き止まり方向は別途撮影。
- 撮影する方向に関しては以下の点に留意する。
 - ・調査対象地区では、撮影方向によって緑視率の差があまり見られないことから、撮影方向を北・西向きとして撮影した。
 - ・傾斜勾配 3~12% の地点では撮影方向によって緑視率に差が生じるため、北・西向きだけでなく南・東向きも同様に撮影する。



	日時	天気	撮影枚数
武蔵関地区	8/19 14:10~15:40	快晴 34°C	163枚
	9/26 14:20~17:30	曇り・雨 17°C	
城南住宅地区	8/20 13:10~16:30	快晴 37°C	203枚
	9/27 14:00~17:20	快晴 24°C	

② 画像分析

- 画像編集ソフト（Adobe Photoshop）を用いて分析を行う。
- 緑の種類を右図のように分類する。「樹木」と「生垣」は「常緑」、「落葉」、「その他・混色」も分類。
- レイヤーごとにピクセル数（画像面積）をカウント
→画像全体とのピクセル比（面積比）より緑視率を算出。

	日時	天気	撮影枚数
武蔵関地区	9/26 14:20~17:30	曇り・雨 17°C	80枚
	9/27 9:30~11:10	晴れ 20°C	
城南住宅地区	9/27 14:00~17:20	快晴 24°C	116枚
	9/28 9:40~11:10	快晴 22°C	

遠くの樹木
樹木（常緑）
樹木（落葉）
樹木（混色・不明）
生垣（常緑）
生垣（落葉）
生垣（混色・不明）
地被植物
その他・不明

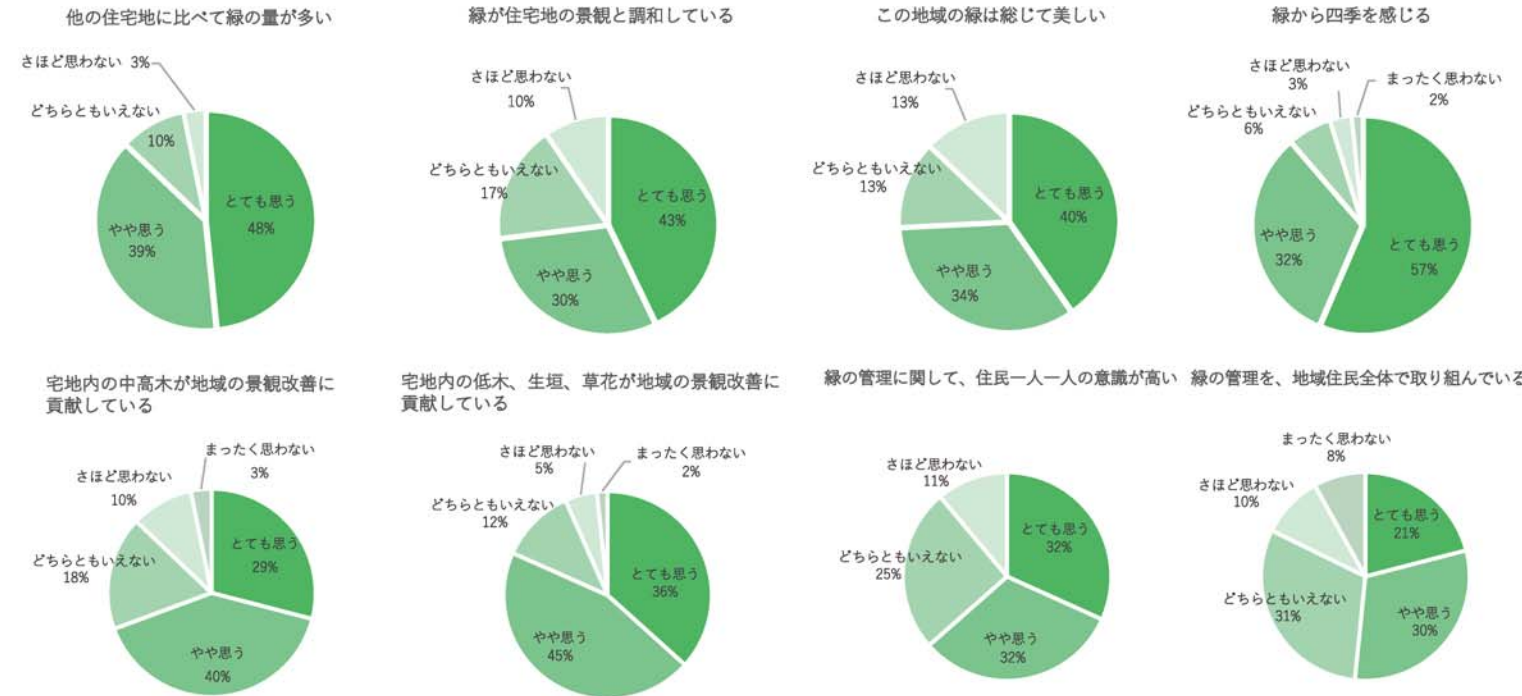
住民のみどりに対する意識を把握するため、アンケート調査を行いました。
 ・対象とした2地区の全住戸にアンケート票をポスティング配布。
 ・回収は同封した封筒（返信用切手添付）にて研究室宛に郵送。
 ・アンケートは2020年11月～12月に実施し、配布数、回収数、回収率は右表のとおり。

	武蔵関地区	城南住宅地区
配布数	112部	168部
回収数	63部	74部
回収率	56.3%	44.0%

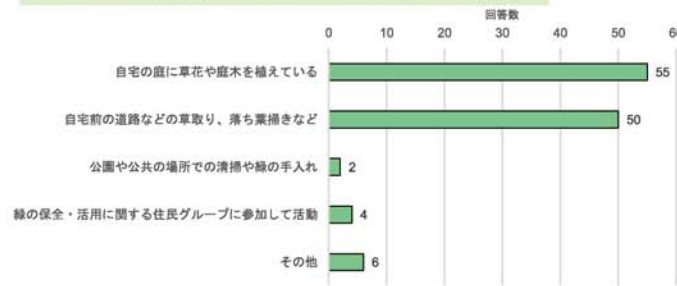
©2020年度 芝浦工業大学環境設計研究室 練馬班
 教授：鈴木俊治、学部4年：早坂拓真（主担当）、田崎諒

■ 武蔵関地区

問1 地区全体の緑の印象

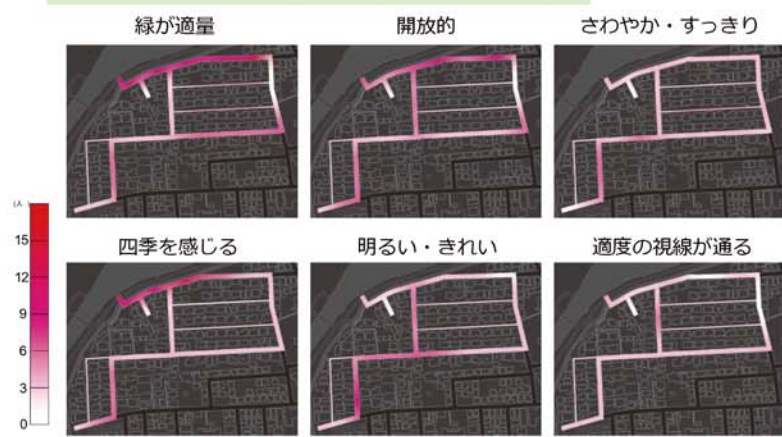


問2 住民が取り組むみどりの活動



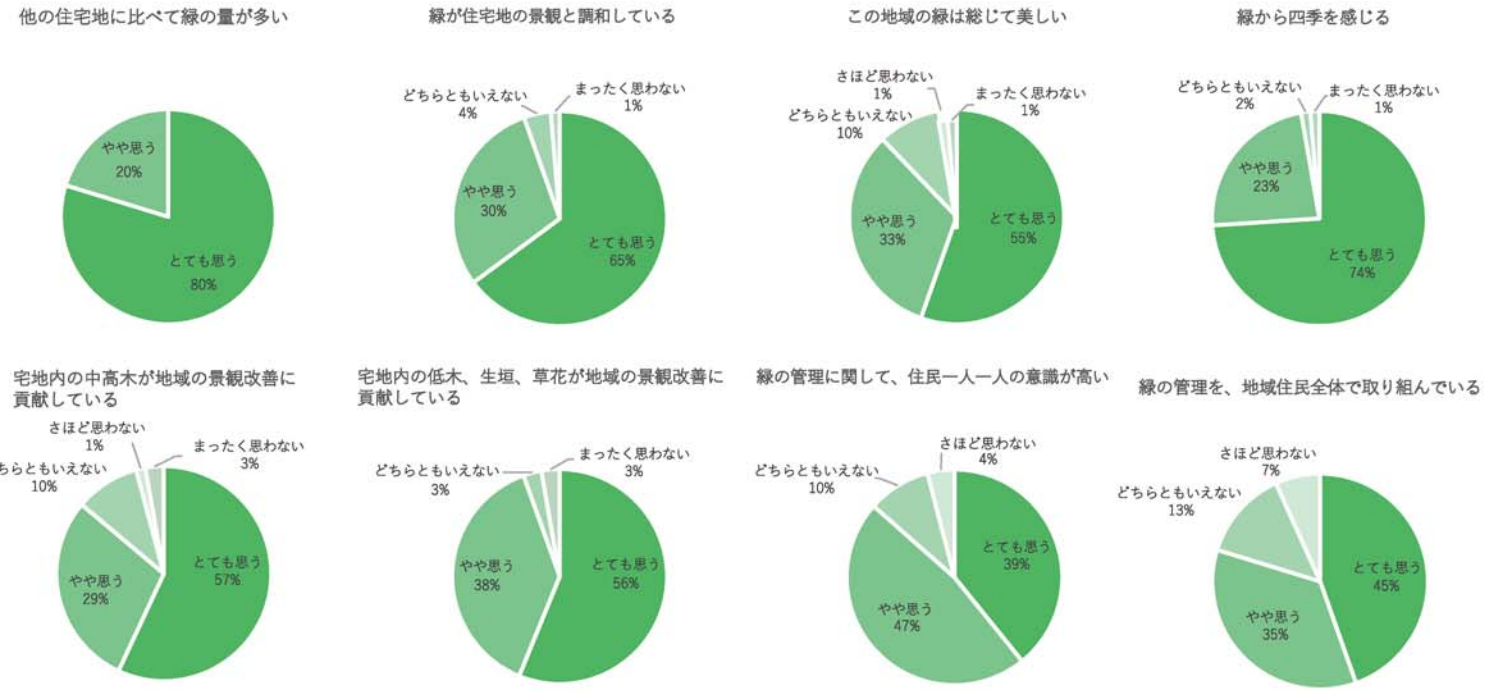
・70~90%の住民が地区全体の緑に「良い」印象を持っている。
 ・宅地内の緑に関しては「低木、生垣、草花が景観改善に貢献している」という評価であった。
 ・緑の管理については「住民一人一人」が担うという傾向が強い。
 ・緑の活動に関しては、79%以上が個人宅での緑の活動に取り組んでいるが、まちとして取り組む活動の回答数は少なかった。

問3 地区内の通りごとの緑の印象



■ 城南住宅地区

問1 地区全体の緑の印象



問2 住民が取り組むみどりの活動



・85~100%の住民は地区全体の緑に「良い」印象を持っている。
 ・宅地内の緑に関しては「低木、生垣、草花が景観改善に貢献している」という結果になった。
 ・緑の管理は「地区全体」の傾向がやや強い。
 ・緑の活動に関しては、80%以上が個人宅での取り組みを行っているが、まちとしての取り組みは少ない。

問3 地区内の通りごとの緑の印象

